

平成 30 年度 成安造形大学自己点検・評価報告書
(学校法人京都成安学園 平成 30 年度 事業計画の進捗状況について)

I 建学の精神・ミッション、学園の目指すべき将来像

II 学校法人京都成安学園（学校法人部門）

【1】事業計画

1 経営基盤の強化

(1) 事務職員の能力開発

- ①大学設置基準の改正を受けて、大学の教育研究活動・管理運営活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、これを担う事務職員・教育職員の能力及び資質の向上を目的とする包括的な職員研修制度体系の構築を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

平成 30 年度については、教育職員・事務職員合同の研修会を大学部門で 2 回実施した。

②評価

包括的な職員研修制度体系の構築までには至っていない。

③今後の方策等

平成 30 年度の教育職員・事務職員合同研修会の実績、事務職員研修会の実施内容等を参考として、次年度は、幼稚園部門を含めた全学園規模での SD のあり方について検討し、包括的な職員研修制度体系の構築を図る。

- ②他大学との合同事務職員研修について、対象校の検討を含めた実施計画をとりまとめ、実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

実施していない。

②評価

従来の聖泉大学、長浜バイオ大学との合同研修にという枠組みについては、その内容・成果などを踏まえて今後は実施しない。

③今後の方策等

新たな枠組みについては、今後の検討課題とする。

(2) 財務基盤の確立

収支の均衡を図り、基本金組入前当年度収支差額における収入超過と支払資金の増減額におけるプラスの状態を維持することのできる財務の実現に向けた計画を立案する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

平成 30 年度補正予算においては、基本金組入前当年度収支差額における収入超過状態の維持は

達成できたものの、支払資金は減少した。

②評価

資金収支補正予算における実収支、事業活動収支補正予算における経常収支差額ならびに基本金組入前当年度収支差額ともに収入超過であり、予算上の収支は均衡しているものの、資金流出は続いている。

③今後の方策等

学生・園児の安定的な確保に加えて、収入源泉の多様化・多角化を進めることで学生生徒等納付金収入と補助金収入に依存する収入構造を変革することなどをおして、財務基盤の確立を図る。

(3) 中長期経営計画の策定

中長期経営計画である第1次経営計画について全面的な改訂を行い、財務基盤の確立のための計画を含む新たな中長期経営計画を策定する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

現在、策定中である。

②評価

概ね予定どおりのスケジュールで進行しているものの、作業に若干の遅れが生じたことにより、当初予定の平成31年3月の完成、4月学内公表の予定から、平成31年5月末完成、6月学内公表に変更する。

③今後の方策等

完成後は、適切に評価・修正等を行う。

(4) 内部監査機能の強化と三様監査体制の確立

内部監査をより実質化するため、また、内部監査機能をより強化・充実するため、監査体制の見直しを含む制度と体制の抜本的な改革を行う。あわせて、内部監査部門と会計監査人（公認会計士）及び監事の連携を図り、三様監査体制を確立する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

内部監査については、内部監査実施計画に基づき、8監査事項中6事項について監査を完了し、必要な措置を講じた。

また、三様監査体制を確立については、定期的に監査人による会議を開催し、情報の共有を図った。

②評価

監査体制については、一定の改革を実施に移すことができた。

③今後の方策等

平成30年度中に、残る2項目についての内部監査を完了する。また、監査の実質化、三様監査体制の確立のための取り組みを継続する。

2 管理・運営

(1) 業務執行体制の改革

業務改善、業務引継ぎの効率化、業務や学生サービスの質の均一化などを目的として業務を可視化し、業務のマニュアル化をすすめる。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

進んでいない。

②評価

優先順位がより高い他の業務を先行させたため、対応ができなかった。

③今後の方策等

平成 31 年度以降に、再度計画を立てる。

3 施設設備整備

(1) 第 2 次 施設設備整備中期計画に基づく施設設備計画の推進

平成 28 年度に策定した第 2 次施設設備整備中期計画（平成 29 年度から平成 33 年度まで）に基づき、計画的に施設設備の整備を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

概ね、対応できている。

②評価

概ね、対応できている。

③今後の方策等

平成 30 年度中の施設設備整備中期計画を再構築する。

4 学園創立 100 周年記念事業

(1) 学園創立 100 周年記念事業の計画の策定

記念式典挙行年度である西暦 2020 年度を中心に展開する学園創立 100 周年記念事業に関して、記念募金事業を含む記念事業の計画を策定する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

理事会において、基本計画を決定した。また、役割分担に基づいて、各部署において計画策定を進めている。

②評価

施設整備に係る計画については、策定中である。その他については、概ね計画とおりに進んでいる。

③今後の方策等

平成 31 年度から本格的な準備作業に入る項目が多いため、実施項目ごとに進捗状況を確認しつつ進める。

II 成安造形大学

【1】基本理念（教育理念）等

- 1 成安造形大学の基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」
- 2 大学の目的と学部・学科の人材育成目的
- 3 大学の3つのポリシー

【2】事業計画

平成 30 年度事業計画の策定にあたり

本学では、人口減少の局面を迎えた社会における地方大学、なかでも収容定員 820 名の小規模の単科大学である本学が永続的な発展をするために、①個性化の追求による大学のブランド化、②大学教育のユニバーサル化、③地方創生の 3 点を基本方針とする将来構想の策定に取り組んでいます。

個性化の追求による大学のブランド化については、芸術大学である本学と文科系の私立大学間、あるいは本学と他の芸術大学間の個性化・差別化、豊かな自然環境や歴史文化、そして広義の福祉の先進的地域としての本学が立地する滋賀県で学ぶことの特質をいかすこと、「就職できる芸大」の標榜、本学で最大の学生を抱え、旧設置校である成安造形短期大学からの流れを汲むイラストレーション分野の先駆性などを切り口とした戦略の構築を進めています。

大学教育のユニバーサル化については、生涯現役・全員参加型の社会の実現が望まれている中で、大学に進学していない層を本学の創造的人材育成の教育の中に受け入れること、外国人留学生の増加策を中心として検討を進めています。

地方創生については、本学の基本理念（教育理念）を踏まえ、「地（知）の拠点としての大学」としてクリエイティブ人材を地元で輩出し、それを定着させ、そしてその活用を図るという国の COC+事業とも連動した取り組みを柱とした構想の実現を図っており、高等学校において美術の専門教育を受けていない層を対象とした「地域実践領域」（クリエイティブ・スタディーズコース）を今年度から新設しました。

また、平成 32 年度には本学の母体である学校法人京都成安学園が創立 100 周年を迎えるため、本法人の歴史や伝統を継承している唯一の高等教育機関として、これまでの 100 年間の軌跡を振り返り、旧設置校も含めた卒業生との繋がりを強化することで、改めて本法人ならびに本学の価値を再認識し、また新たな価値を生み出すとともに、学内外に向けて本学の存在意義をアピールして、ブランド力を向上させる絶好の機会と捉えています。

先述した基本方針を踏まえ、平成 30 年度事業計画の策定にあたっては、これまで取り組んできた事業の進捗状況ならびに課題についての評価と検証を行い、当年度に優先すべき以下の事業を中心に計画しています。

- ①平成 29 年度から 9 コース制でスタートしているイラストレーション領域ならびに平成 30 年度からスタートした地域実践領域、平成 30 年度から教育課程を改編した総合領域と情報デザイン領域における体制整備ならびに募集広報の強化
- ②姉妹校やパートナーシップ校を中心とした教育連携の推進
- ③外国人留学生の獲得強化に向けた募集広報の強化及び受け入れ態勢の整備
- ④学園創立 100 周年に向けた大学同窓会等との連携強化事業の実施及び記念事業の策定
- ⑤3 つのポリシー（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション）を起点とする内部質保証体系

制の整備

1 教育活動に関する事業

(1) 学生の受け入れ

(A) 選抜方法

- ①アドミッションポリシーのさらなる具体化、明確化を図る。
- ②受験者及び入学者数を安定的に確保するため、学校長推薦が必要な従来の「公募推薦入試」を自己推薦型に変更し、より出願がしやすい入試制度に変更する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

- ・アドミッションポリシーは、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーとの整合性の検証が必要であることから、2021年度入試から改定する予定で作業を進めている。
- ・入試制度は、2020年度入試から公募推薦入試を自己推薦入試に名称を改める。また、その周知を高等学校、画塾等へ図っている。

②評価

安定的な獲得を最優先してきたが、アドミッションポリシーに沿った制度であるかの見直しと3つの学力を総合的に評価する制度への変更が求められる。

③今後の方策等

スケジュールに沿って変更作業を進める。

(B) 募集目標・募集戦略

- ①入学定員の安定的確保と特待生・給付奨学生の人数の適性化を目指す。
- ②特待生型・給付奨学生型入試をセールスポイントとし、AO入試などの専願受験者の増加と、国公立などとの併願受験者の増加を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

- ・入学目標者数を240名（特待生・給付生60名以内）に変更し、各試験の合格者数を再検討した結果、AO入試で115名を獲得した。特待生・給付生の合格者数は60名以内の入学者数に抑えるため、特待生26名、給付奨学生39名、計65名に留めた。
- ・特待生型と給付奨学生型入試で昨年度不合格者が多かった高校や画塾を重点に募集活動を展開し、入試説明会やデッサン模擬講習会などを数校で実施したが、志願者275名に留まった。

②評価

入学目標者数は、達成見込みではあるので一定の評価をしている。しかし、次年度以降の高等教育無償化による補助金カットが予測されるため、特待生・給付奨学生の獲得人数を再度検討し、競争倍率が高いことによる受験生離れをどう抑えるかの検討が必要である。

③今後の方策等

選抜方法と並行して、今後の各試験における人数獲得のシミュレーションを行う。

(C) 広報戦略

- ①紙媒体・ウェブ媒体などを通して、これまでに構築してきた成安のイメージを踏襲しつつ、

成安の強みや魅力を受験生等に明確に伝えていく。

- ②特待生型・給付奨学生型入試を切り口に、高校や研究所との連携を強化し、受験生や本学の支持者（高校や研究所の教員等）を増やす。
- ③地域実践領域ならびに平成 29・30 年度に改編の 3 領域の募集広報を継続的に強化していく。
- ④リスティング広告などを利用し、イベント集客増加や特待生型・給付奨学生型入試の周知を図る。
- ⑤外国人留学生の獲得強化に向け、ツール作成や日本語学校への働きかけなどの募集広報を強化していく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

本学の強みを取りまとめたツール制作、バナー広告の利用、SEIAN WATCHING の案内 DM の作成配布、新たに合格作品等を使ったミニ説明会の開催、合格ボーダーラインの作品公開、レッスンの模擬講習会の実施など。また、本学ウェブサイトでは、教育連携推進センターのコンテンツを制作公開、卒業生紹介 w のサイトを構築中、リスティング広告の実施など。

②評価

本学の強みを明確に打ち出し、他大学との違いを PR し、高等学校や画塾への積極的な募集活動と連携授業の展開については、現体制と予算を考慮すると高い評価ができる。

③今後の方策等

効果測定をできるだけ具体化し、引き続き、コストパフォーマンスの高い本学にあった広報手段を考える。

(2) 教育内容及び教育課程

- ①平成 29 年度に完成年度を迎えた新カリキュラムについて、各科目の学習目標と学位授与方針との関連性を検証し、教育課程が更に充実したものとなるようシラバスに反映していく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

平成 30 年度シラバスの作成時における入力手引きに、各科目の学習目標を学位授与方針の関連性を記載するように求めている。

②評価

科目担当者が学位授与方針と科目の関連性を理解できておらず、シラバスにおいて明確には記載できていない。

③今後の方策等

平成 31 年度も引き続きシラバス作成時の手引きに、各科目の学習目標と学位授与方針の関連性を含め科目概要に記載するように明記するとともに、学位授与方針について科目の関連性が理解できるよう研修等を検討する。また、平成 29 年度から改編したイラストレーション領域、平成 30 年度から改編した総合領域並びに情報デザイン領域、同じく平成 30 年度に新設した地域実践領域の現状を踏まえ、カリキュラム内容や運営体制などを検証する。

- ②教科に関する科目、教職に関する科目の整備と教員の配置等を確定し、教職課程再課程申請を文部科学省に提出する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

文部科学省への申請及び指摘事項への対応は終了し、2月に認定結果の発表がある。

②評価

認可される見込みである。

③今後の方策等

課程認定において複数教員で担当しないと認定されなかった科目があるため、非常勤委嘱時の持ちコマの反映に注意が必要である。

(3) 教育連携

- ① 平成 28 年度に検討した教育連携タスクフォースの答申内容を踏まえ、当年度から「教育連携推進センター」を設置し、姉妹校やパートナーシップ校との連携強化を図る。
- ② 姉妹校やパートナーシップ校以外の高等学校との教育連携を検討するとともに、日本語学校等の教育機関との教育連携も模索する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

教育連携の取り組み状況を発信する為のウェブサイトのコンテンツを制作公開。また、クリエイター合宿を2年ぶりに実施した。

②評価

相手校と共に検討する形で実施し、教育連携の実績を積みあげられた。また、その取り組み状況をウェブサイトで発信できるようになり、新たな機関との連携の可能性が広がった。

③今後の方策等

より効果的に実施できた連携事業を新たな教育機関にどのように伝えていくかが課題である。また、担当職員や一部の教員に職務が集中しており、効果的な実施や組織作りを再検討する必要がある。

(4) FD（教授方法等の改善）の取り組み

- ① 授業評価アンケートで明確になった課題について領域にフィードバックし、組織的に連携を図りながら課題解決に向けた取り組みを行っていく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

授業評価アンケート結果について、科目ごとではなく講義・演習・実習ごとの平均値を領域科目ごとに集計し領域主任に配布し振り返りをお願いしている。後期アンケート結果についても同様に振り返りを作成する予定。

②評価

領域科目別の講義・演習・実習の平均値については授業評価アンケートを開始した3年前に比べ、特に悪い数値が出ている項目がなく平均化している。これはある程度の授業への改善がされていることが見込まれる。

③今後の方策等

平均値からはある程度の改善がみられることから、授業評価アンケートについても次年度に向け

て新たな内容に改善していく必要がある。

- ② FDに取り組むことの必要性と認識度を高め、また個々の教員の資質・能力向上に向けたFD研修会を6月と10月に実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

6月に2018年度第1回FD研修会を実施。「成安造形大学における学習成果とは」をテーマに2017年度学習成果アンケート結果をもとにグループディスカッション形式の研修会を実施。10月に第2回FD研修会を実施。大阪府立大学工業高等専門学校の前野健一先生を講師に迎え「ティーチングポートフォリオとは」をテーマに講演をいただき、その後ペアワークを行う研修会を実施した。

②評価

6月、10月両日の研修会とも、専任・特任・助教の教員について業務での欠席を除きほぼ全員の教員が出席をされた。またFD研修会後のアンケートからもFD研修会の必要性は理解を得ている。

③今後の方策等

今年度のFD研修会についてはある程度の満足度を得たが、次年度以降のFD研修会終についても後のアンケートの意見を参考に、FD研修会を企画・検討していく必要がある。

- ③ 学習成果調査の集計結果のもと、教育目的の達成状況を分析・点検する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

2017年度学習成果アンケートについては、FD委員会において観点別の評価平均を算出しそれを受けて2018年度第1回FD研修会において、本学の教育目的の達成状況について研修を行った。

②評価

本学では学習成果について学生にアンケートを実施したことがなく、2017年度学習成果アンケートが初の試みであったが、このカリキュラムを卒業した学生からは全国平均値から比べ、創造性についてはある程度本学がもつめる人材育成目的に沿った結果でたと判断できる。

③今後の方策等

初めてのアンケートであることから、経年でアンケートを実施する必要がある。

(5) キャリア教育の推進

- ① キャリア支援の意識向上を図るため、学生の就職活動状況やキャリアサポートセンターの取組状況について、年1回研修会を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

3月4日(月)の教授会終了後に平成30年度キャリア研修会を開催予定。

②評価

「年度の進路状況、学生の動き、キャリアサポートセンターの活動紹介、キャリアサポートに対する協力について」の内容で研修を行います。研修後、アンケートを実施し、教員からの研修会に対する感想や評価を検証する予定である。

③今後の方策等

年1回の研修会は継続開催する予定です。内容については、本年度のアンケート結果やその年度

の就活状況を検証しながら決定する。

- ② 教職協働のもと、卒業予定者全員の進路状況把握や就職支援を行うことで、進路決定率の向上を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

10月22日よりゼミ担当教員20名とキャリアサポートセンター職員との進路情報共有（卒業予定者191名の就活進路状況等）を目的とした「ミーティング（一人30分間）」を実施しました。また10月より成安情報サービスを活用した「キャリアサポ通信」を配信しています。コース別内定状況や就活情報、キャリアサポートセンターの活動情報など、教員への情報提供、情報共有を目的にしている。

②評価

「ミーティング」は、ゼミ担当教員のキャリアに対する考え方把握およびゼミ担当教員が持つ学生の就活進路情報等の情報交換が出来、有意義であったと評価しています。一部のゼミ担当教員からも継続した実施の要望も受けました。「キャリアサポ通信」は、教授会での進路状況報告が無くなっている現状、教員への情報発信策として良い試みであると評価している。

③今後の方策等

ゼミ担当教員との「ミーティング」は、開催時期や回数を検討しながら継続開催します。また「キャリアサポ通信」も内容の充実と配信回数などを改善しながら継続配信する。

- ③ OB・OGから直接話を聞くことで、在学生在が自らのキャリアプランを考えるきっかけとしてもらうことを目的に、交流イベントを実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

昨年企画された「社会で活躍する同窓生と在在学生との交流イベント」については、目的や学生のニーズ、時期、場所、予算等を総合的に検討・判断し、本年度の開催は見送った。

②評価

事業計画に掲げた目標を実施出来なかったことは反省しています。しかし目的やニーズ、経費効率を考え、中途半端な開催で失敗するより、開催を見送り、次年度に向け企画を考え直す判断したことは間違っていないと評価している。

③今後の方策等

次年度の開催に向け、目的を明確化し、学生ニーズを考慮した新たな企画を策定と予算申請を行った。今後は学内の関連部署等で協議を行い、2月に開催する同窓会役員会にて提案し協力を依頼する。

- ① 本学卒業生が就職した企業に対し「採用活動・卒業生についてのアンケート」を引き続き実施し、本学卒業生の能力や意識の水準、採用試験で重要視される項目などのデータ収集に努め、学生への就職指導に役立てていく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

本年度はアンケートの目的と企業担当者の負担等を検討し、見直しを図った。卒業生が就職した企業だけでなく、求人依頼をする企業約 500 社に対し 1 月 18 日にアンケートを依頼する。アンケート項目を採用に関する内容を 12 項目から 5 項目に絞りこみ、また回答方法も紙からネットに変更した。2 月中旬の回答締切り、2 月下旬には分析をする予定である。

②評価

今後の人材育成やキャリア教育に、また学生へのキャリアサポートに活かせるアンケートに変更した点、および企業担当者への負担軽減を考えたことは評価できると考えている。

③今後の方策等

2 月中旬の回答締切りおよびその後の結果集計と分析、その結果を受けてのサポートへの活かし方を検討していく。

- ② 学生のニーズを考慮した企業研究会やワークショップなどの取り組み強化を図り、インターンシップ含め学生の参加率向上に取り組む。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

ワークショップは、後期より 5 種類の企画を募集開始した。内 1 つの企画については参加申込みが少なく経費効率が悪いためやむなく中止した。4 種類のワークショップに参加した学生は総数 69 名（昨年 7 種類 81 名）であった。参加した学生からはアンケートをおこない、得られた意見・感想を今後活かす。企業研究会（説明会）は、現時点で 16 社 217 名（昨年 14 社 129 名）の学生が参加した。2 月には 2020 年 3 月卒の学生を対象とした合同企業研究会（12 社参加）を開催する。就職エージェントマッチング会は、7 社 21 名（昨年 2 社 13 名）です。インターンシップは、25 名で参加率は 10.6%で昨年（32 名 17.2%）を下回った。

②評価

ワークショップは開催回数および参加人数とも昨年を下回り目標である強化することができなかった。企画内容が目的や学生ニーズにあっていたのか等検証する必要がある。企業研究会およびマッチング会は本年の採用状況がかなり前倒しになっているため、早めからマッチングの機会を増やし内定を得たことは評価できる。インターンシップは、大学コンソーシアム京都主催及び COC+主催の参加者が少なくなり昨年を下回った。

③今後の方策等

ワークショップは、学生が参加しやすい日時・曜日・時間帯などを検討していく。企画内容については、学生のニーズや教員からの意見を聞きながら、企画の目的や主旨を明確にし、今知っておくべき事、身につけておくべき事などタイムリーな内容での企画を検討していく。また企画の目的や主旨を学生に正しく周知・理解するように工夫する。企業研究会（説明会）は採用状況なども勘案し基本前倒しでの企画検討を行う。インターンシップは新たな受入れ先開拓とともにコンソーシアム京都や COC+主催のインターンシップの周知方法を工夫する予定である。

- ③ 平成 24 年度から平成 27 年度までの卒業生を対象に、現況把握のため、勤務先での就業形態、職種、満足度等の卒業生アンケートを実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

目的、対象、実施時期、対象者、アンケート方法と項目など企画全般の見直しを行い新たな企画を構築した。今後は、領域主任会議にてアンケート項目・内容に対する意見をもらい、質保証協議会等と調整し、運営協議会、教授会の議を経て 3 月に対象の直近 4 年の卒業生に依頼する予

定である。アンケートの結果集計および分析は次年度 6 月から行う予定である。

②評価

アンケートを取るだけの企画ではなく、目的や活用を考えた企画に変更したことは評価できる。また、卒業生の負担を考え質問項目を絞りこみ、回答方法もネットを活用した方法に変更した。一人でも多くの卒業生が回答して、集計・分析・活用する時点で再度評価を行う予定である。

③今後の方策等

継続して卒業生アンケートを実施する。継続実施するために、アンケートの目的や計画、対象者選定、アンケート項目などを検討する。

- ④ 学生への求人情報提供の手段として、SNS 等の利用を検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

学生への情報提供手段について他大学の情報収集を行った。本学の学生への情報提供方法は、成安情報サービス（Gmail）であり学生にも活用を徹底している現状、他の SNS 等の利用は逆行するため活用しないと判断している。

②評価

他大学の情報収集し参考にしながらも本学の目指す情報提供手段を活用する結論に至ったことは良かった。色々な情報提供手段・方法を選択することで、学生が混乱することを避けることが出来た。

③今後の方策等

SNS は、流行り廃りは激しい一方、有効な手段としての SNS もあり、継続して SNS の情報収集は行う。また、本学の成安情報サービス（Gmail）活用については、未整備状態であるルールを大学として決める必要がある。

(6) 学生支援

- ① 学生を本学の教育支援活動に従事させることにより、学生の職業意識や職業観を育むとともに経済的事情を抱える学生に対する一層の支援を行うため、学内ワークスタディ事業を検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

1 月の学生委員会において、経済的支援対象者については本学の給付奨学生の家計基準を参考にした学内ワークスタディ事業にかかる規定案を提出し協議を行った。

②評価

学生委員会で協議の結果、経済的支援を必要とする学生の家計基準について、現在文部科学省で高等教育の無償化に向けて検討がされており、経済的支援が必要な学生の家計基準の見直しが検討されているのをうけて、本学における経済的支援対象についても国庫補助を目的に文部科学省の経済的支援対象者の基準が明確にしたうえで制定するべきとの結論に至った。

③今後の方策等

文部科学省の高等教育無償化に向けてのある程度の方針が見えたうえで、改めて学内ワークスタディ事業に関する規程を制定する必要がある。

- ② 障がいのある学生やメンタル的な課題を抱えている学生など、学生生活の問題は今まで以上

に複雑かつ多岐にわたっているため、知識や対応方法の修得のため、継続して研修会を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

障がい学生支援委員会において、現在本学における障がいのある学生やメンタル的な課題を抱えている学生などについて共有を行い、平成30年度については、全教職員を対象に障がい学生支援に関する研修会を3月4日（月）に開催する予定。

②評価

障がい学生においては、障がい学生支援委員会を中心に、組織的な取り組みができています。

③今後の方策等

年々、障害のある学生やメンタル的な課題を抱えている学生の対応数は増加を続けているため、積極的に研修会等を行い障がい学生支援の在り方を共有する必要がある。

- ③ 休退学者の減少を図ることは大学にとって継続的な課題であり、過去のデータを分析・参考にしながら休退学サポートについての研修会の実施を検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

今年度は、障がい学生支援についての研修会を実施したが、離学者予防を目的とした研修会は実施しなかった。

②評価

離学者対策について、学生支援部や学生相談室を中心に個別の対応を行っているが、今後は全体の研修会など、組織的な取り組みが必要である。

③今後の方策等

休退学の要因については、本質的にメンタル的な理由と別の理由が複合的な要因となって休退学につながるケースが多々見られる。今後も過去のデータを分析し休退学者減少に努める必要がある。

(7) 教育環境の整備

- ① 保健室について、多くの学生が利用している現状から、職員が常に目の行き届く場所への移設を検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

事務室内にある現在の非常勤控室に、保健室を移設予定。

②評価

他の施設整備との関わりもあり、計画が遅れている。平成31年度中には計画を取りまとめ、

③今後の方策等

保健室の機能や仕様を明確にし、平成31年度中に計画を具体化し、平成32年度からの供用を目指す。

- ② 新領域設置・コース改編に伴い、年次計画のとおり施設設備を整える。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

2019 平成 31 年 4 月に主に次の整備を終えた。

- ・大会議室の多目的化・地域実践領域演習室の増設・
- ・イラストレーション領域 CP ルームの増設・CP ルーム C の移設

②評価

大きな工事は、台風被害の復旧工事と関連させ効率化できた。また、什器なども可能なかぎり再利用できた。

③今後の方策等

さらに先の年次計画を策定する必要がある。

(8) 本学学生の国外の大学への留学の支援

TOEFL 基礎講座受講者に対するアンケート結果に基づき、講座の更なる充実を図っていく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

9 月の学生委員会でアンケート結果について行儀が行われた。

②評価

アンケート結果から現状で TOEFL 基礎講座受講者の満足度は高く特に改善の必要はないとの結論に至った。

③今後の方策等

次年度以降も、継続する。

(9) 留学生の受け入れ・支援

① 国外の大学からの留学生の受け入れ

交換留学生サポーターに対するアンケート結果に基づき、サポート体制の更なる充実を図っていく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

9 月の学生委員会でアンケート結果に基づきサポート体制について協議が行われた。

②評価

全般的に交換留学生サポーターの人数が少なく、授業では一人のサポーターの負担が多くなることもあり、複数で学生が相互に対応できる体制が必要であるのと、交換留学生にもサポートできる時と、出来ない時を明確に伝える必要がある。

③今後の方策等

アンケートは単年度では分析が難しいので、少なくとも複数年で行う必要がある。

② 私費外国人留学生の支援

私費外国人留学生の動向を把握するために、アンケートを実施し、その分析のもと、担当する組織や人的サポート体制について検討していく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

12月の学生委員会でアンケート結果を報告。1月の学生委員会でアンケート内容を分析・検討を行った。

②評価

留学生支援については、日本語で通常の日常会話が話せる学生であってもメンタル面や体調面でトラブルを抱えたときには、母国語での支援が必要になるのではとの結論となった。

③今後の方策等

次年度以降に学生支援部に留学生支援センターを設置し、語学が堪能な職員を配置することで現状以上の支援体制は見込まれるが、アンケートについては引き続き行う必要がある。また、きめ細かな支援体制を構築するために、入学時の日本語能力や学修状況などを把握するための入学者選抜試験の方法や受け入れ基準の明確化を検討する。

2 研究活動に関する事業

(1) 附属芸術文化研究所における研究活動

自主的研究を発表できるよう研究紀要を発刊する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

研究活動運営委員会で今年度の活動確認し、履歴業績集約と情報公開、紀要の作成、科研費の応募支援ならびに研究活動支援を実施した。研究紀要を2019年3月に発刊する。

②評価

計画通り教育・研究活動を集約し、情報公開、紀要作成に向けた取り組み、公的研究活動の支援などについて実施している。

③今後の方策

等研究活動についての方針を再構築し、研究活動の公開について更なる充実を目指す。研究紀要は、WEB仕様を目指す。

(2) 附属近江学研究所における研究活動

- ① 開設11年目を迎え新3ヵ年研究（今後3年間）プロジェクトとして「里」「川」「祭」をテーマに、それぞれの研究員の視点で多角的に研究する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

附属近江学研究所運営委員会において、定期的に研究活動の確認をすすめている。

②評価

3ヵ年のテーマ設定により、研究活動の進め方も単年度の設定に比べ流れができてきた。

③今後の方策等

これまでの10年間の研究活動を基盤として、これからの10年間の新たな観点からテーマ設定を検討する。

- ② 「近江の里」をテーマにした、文化誌「近江学」第11号を発刊する。また、自主的研究を発表できるよう研究紀要を発刊する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

当初の計画通り 2018 年 12 月に文化誌を発刊した。また、3 月に紀要を発刊する。文化誌「近江学」については、東京日本橋の「ここ滋賀」でも販売を開始した。

②評価

計画通り実施している。また、2018 年度からデザインをリニューアルして、より幅広い世代に読みやすい研究成果物として発刊できた。

③今後の方策等

今後もより研究成果が幅広い世代に還元できるような文化誌作りを目指す。

(3) 研究活動支援

公的研究費のコンプライアンスについての研修会を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

研究活動運営委員会、公的研究費等不正使用防止計画推進委員会で今年度の活動確認し、コンプライアンス研修会（10 月 26 日）、ならびに研究活動支援について実施した。

②評価

計画通り研修会を実施した。ただし、2018 年度の内部監査により、研究活動を推進するための支援体制において未整備事項がある。

③今後の方策等

今後、研究活動支援体制再整備、コンプライアンス教育の充実、本学の研究活動の公開について更なる充実を目指す。

3 社会連携活動に関する事業

(1) 地域連携推進センターにおける社会連携活動

- ① 滋賀県内唯一の芸術大学であることをいかした受託事業を推進していく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

連携事業について、内容を精査して本学の社会連携活動を実施している。今年度も、滋賀県のプロポーザル型事業を委託することで教育研究活動をあらたな視点で展開することができた。学生クリエイター制度については、地域から芸大生ならではの活動依頼について学生全員に公募型で情報提供して、学生が芸術による社会への貢献の実践の場となるようすすめている。

実施件数 33 (連携先 地方自治体 14 公益法人等 9 企業等 10)

プロジェクト演習として実施 10 学生クリエイター5

②評価

受託事業を推進する上で、連携先と大学の信頼関係が、着実に構築されている。学生クリエイターは、本学の芸術分野の学びを活かした貢献活動のとなるよう体制整備が進んでいる。

③今後の方策等

国がすすめる産官学連携の方針に基づき本学の連携事業についても再構築する時期である。本学の研究実績を更に充実させるために若手の研究者の支援なども今後の課題である。

- ② 活動内容・活動状況をウェブサイトやパンフレットで発信し、学内・学外へよりわかりやすく

伝える。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

活動内容・活動状況は、大学ホームページ内の特設サイトで伝えている。
「ちれん Seian Projects 2018-2019 vol.9」を3月に発刊する。

②評価

計画通り実施している。

③今後の方策等

実施した事業について、よりわかりやすい成果報告となるよう検討をする。

- ③ 同窓会との連携のなかで、卒業生クリエイター制度の創設を進める。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

連携事案内容によって卒業生の活用を模索し、「卒業生クリエイター制度」創設に向けた検討を始めている。

②評価

計画通り実施している。

③今後の方策等

次年度も引き続き卒業生クリエイター制度の創設を進める。

(2) 附属近江学研究所における社会連携活動

- ① 公開講座を5回開講、写生会を2回、風景画の公募展を開催するなど、近江学研究所を地域社会に還元する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

公開講座(5回) 参加者数 406名(延べ数) / 写生会(2回) 参加者数 51名(延べ数)/風景展
(12月1日より8日間) 出品数 47点 来場者数 418名

②評価

研究員の研究活動の成果について、文化誌では語れなかったエピソードが講座で紹介されるなどより深い学びとなっている。

③今後の方策等

公開講座のパンフレットを今後リニューアルすることで、在学生や卒業生など幅広い年代に提供できる講座案内ができるようにする。

- ② 会員制の「近江学フォーラム」を運営する。その中で、会員限定講座(現地研修1回を含む)を6回開講する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

2018年度フォーラム会員数 207名 5講座参加者数 473名(延べ数)
現地研修参加者数 75名

②評価

2018年度の講座は、歴史・文化分野2講座、環境学分野1講座、地理学分野1講座、生物学分野1講座で構成された。参加者のアンケートではより多様なびわ湖の姿を学ぶ機会となったとの評価を得ている。

③今後の方策等

フォーラム会員数の増加を目指す取り組みとして、2019年度当初に学外で特別公開講座を計画している。

(2) 「キャンパスが美術館」における活動

- ① 4・6・7月に、「キャンパスが美術館」が中心となって運営する展覧会を開催する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

2018年度、キャンパスが美術館が運営した展覧会は以下の通り。

4月 退任記念展 / 5月 新任教員展 / 9月 高校教員展
10月 秋の芸術月間

芸術月間の取り組みについては、滋賀県の「暮らしアート事業」の補助を受けた。キャンパスが美術館主催の展覧会では、学生スタッフが搬入出の手伝いや監視の役割を担ってくれている。

②評価

計画通り実施している。

③今後の方策等

キャンパスが美術館の使用要領を整備し、各展覧会の運営面での支援を更に充実させていく。

- ② 秋に「2018秋の芸術月間 セイアンアーツアテンション」を開催する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

2018年度は【キャンパスが美術館】における大学と同窓会との連携事業の第1弾として「2018秋の芸術月間 セイアンアーツアテンション11」を開催した。

10月26日より 17日間開催 来場者数 1458人（延べ数）

②評価

企画、制作期間、広報、関連イベントなど計画通りに実施できている。大学の教育研究の発表の場であると同時に本学での学びを社会で継続している卒業生の姿を学内で示すことの重要性を再認識することができた。

③今後の方策等

次年度以降も、大学同窓会との連携事業としての企画を進める。1年間の展覧会企画の中で、芸術月間に求められる内容は多様であり、制作補助、広報活動、関連イベントの企画運営など総合的に進めなくてはならない実態を踏まえて、スタッフ業務のあり方、作業補助の導入など今後、検討が必要だと考える。

- ③ 学園創立100周年に向けた大学同窓会等との連携強化事業の実施及び記念事業の策定

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

大学同窓会との連携強化事業として、卒業生の活動を紹介する展覧会を開催する。

キャンパスが美術館・会員子女の学費減免に関する事項は進んだ。また、記念事業はホームカミ

ングデーを開催することを決定している。

②評価

展覧会は、内外から好評であった。

③今後の方策等

事業実施を継続していくことと、計画の修正等が必要となるケースがあり、同窓会役員等とともに検討していく。

(4) 教員免許状更新講習の推進

本学の特徴をいかした内容の講習を実施する。7月末から4日間、7講座で170人の受講者を見込む。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

下記の通り2018年度教員免許状更新講習が実施された。

7月31日～8月3日 4日間7講習 受講者数 182 認定数 182

開設している7講習は、特殊要因教科・科目免許状更新講習開設事業として、国からの補助を受けている。2017年度に引き続き、2018年度も本学卒業生が、受講している。

②評価

計画通り実施している。

③今後の方策等

教職課程を有する大学として次年度も、講習開設を検討する。

(5) COC+事業の推進

本学が採択されている文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+事業)は、5カ年計画の4年目を迎える。この取り組みの中で、地元志向に資する教育プログラムをさらに充実し、地元就職率の向上を目指す。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

4年目のトピックとして、学生の主体的な地域貢献活動を推進する「セイアン近江楽座」を充実させた。

②評価

地元志向教育はその内容が進化してきた。しかし、地元就職率は「学生の意思の尊重」から、向上は困難な状況である。

③今後の方策等

本補助事業が終了する2020年度以降も、主な地元志向教育の4科目や「セイアン近江楽座」を中心に継続・深化させる。また、地元就職もキャリアの選択肢として地道に提示していく。

(6) SDGs（持続可能な開発目標）の推進

教育研究活動の拠り所として、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を啓発するため、教職員を対象としたSDGsの理解を深める研修会を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

外部研修などの情報提供を行い、参加を推奨しているが、全学を対象とした研修会の開催までは至っていない。

②評価

教職員の自己研鑽に留まっており、全学での取り組みが求められる。

③今後の方策等

教職員や学生を対象とした研修会の企画実施など。

(7) 国外の大学・研究機関との交流

既に交流を行っている国外大学への留学生派遣及び国外大学からの留学生受入について、積極的な取り組みを行い、更なる交流促進を図っていく。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

バーススパ大学へ2名、SVAに2名派遣。マンハイム専門学校より2名受け入れ。

②評価

いずれも前年度と比べ、減少している。

③今後の方策等

在学生のニーズや留学に対する意識調査、協定校とのコミュニケーションの推進や新たな協定校や交流事業の模索。

4 内部質保証

(1) 質保証協議会の設置

自己点検・評価委員会を改め、質保証協議会を設置し、3つのポリシーを起点として教育の質保証の責任体制を明確にする。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

4月より質保証協議会を設置し、本学の質保証システムとその責任体制について協議し、平成33年度の大学機関別認証評価の受審に向け、課題抽出と作業工程を策定した。

②評価

予定より、少し遅れているが、来年度以降の取り組みに一定の目途が立った。

③今後の方策等

作業工程に基づき、教育の質保証に向けた取り組みを推進していく。

(2) IR活動

教育に関するデータや情報の収集・蓄積・分析、またその結果を活用するシステムを検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

協議会が設置され、学長のリーダーシップのもと質保証の協議が進んでいる。

②評価

芸術大学の独自性を考慮していることで、質保証の有効性が高まっている。

③今後の方策等

学内の全てのスタッフに質保証を周知していく。

(3) 外部監査

公平な点検・評価を促進するために、学外の有識者などから意見聴取できる仕組みを検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

補助金の対象項目にも頻出しているが、具現化できていない。

②評価

現時点での評価を下すなら×である。

③今後の方策等

人選及び会議への出席依頼等を質保証会議において審議する必要がある。

(4) 情報公開

自己点検・評価報告書だけでなく、その自己点検・評価において抽出された課題に対する改善方策の進捗状況の報告など、積極的かつ敏速な情報公開を検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

GPAの分布状況など、教育の質保証に関わって、公共性の高い教育機関としての説明責任を果たすべく、公開できる情報について検討中である。

②評価

より積極的な情報公開の検討が必要である。

③今後の方策等

社会に対して必要な説明責任を果たすため、公開すべき教育情報を抽出し、その情報の収集ならびに分析の方法を検討する。

5 管理・運営

(1) 事務機構改革

平成29年度から平成31年度を実施期間として進めている組織改編及び事務職員の定数化に伴い、各部署において、現状の業務の検証を行う。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

教務課と学生課について、教学課への一本化の作業を進めている。その他の部署においても現状の業務の検証を行っている。

②評価

予定通り進んでいる。

③今後の方策等

事務職員の定数化を基本としつつ、教育連携や留学生支援など、新たな課題が出てきており、その対応に向け早急な組織作りを行う。

(2) 事務業務の効率化

重複業務や不要業務などを抽出した上で、業務の整理・統合を、また、定型業務については、可視化・マニュアル化・数値化を推進する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

各部署の業務について、業務の移管や整理・統合を検討中である。定型業務の可視化・マニュアル化・数値化は、一部の業務でのみ進んでいる。

②評価

各部署間での業務の見直しは進めているが、業務効率の大幅な改善には至っていない。また、定型業務の可視化・マニュアル化・数値化は、人事異動や中途退職が重なったこともあり、遅れているので、更なる推進が必要。

③今後の方策等

各部署の定型業務を明確にし、可能な限りの可視化・マニュアル化・数値化を実現する。

6 学園創立 100 周年記念事業

(1) キャンパスの整備・美化

在学生や教職員だけでなく、学外者が芸術に対する興味や関心、居心地の良さや安心感、解放感が感じられるキャンパスの整備などを検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

運営協議会を中心に検討中である。

②評価

予定より遅れているが、平成 32 年度中の竣工に向け、検討を進めている。

③今後の方策等

作業工程に基づき、推進していく。

(2) 特設ウェブサイト・ロゴマーク

学園創立 100 周年記念の特設ウェブサイトや記念事業のロゴマークを検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

作業工程に基づき、平成 31 年に開設及び作成予定である。

②評価

継続中である。

③今後の方策等

作業工程どおりに、完成させる。

(3) 学園歴史資料室の整備

収集されている学園の歴史資料を再確認し、学園創立 100 周年に向けて学園歴史資料室の再整備を検討する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

学園の歴史資料については、カテゴリ別に整理して、収蔵した。学園歴史資料室の再整備は、クリエイティブキャンパス計画に基づく移設時に再検討する。

②評価

計画どおりに進んでいる。

③今後の方策等

整理した歴史資料を活用した歴史資料室の再整備を検討。

(4) 大学同窓会との連携強化

学園創立 100 周年に向け、卒業生に対する積極的な情報発信やコミュニティーの活性化、在学生との交流機会の提供など、大学同窓会との連携強化を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

大学同窓会の会員の子供を含む学園卒業生子女減免規程を制定し、学園報やホームページで情報を発信し、平成 31 年度入学者のうち、学園卒業生子女として 5 名が入学予定。その他に、大学のウェブサイトで新たなコンテンツとして大学卒業生の活躍を紹介する「SEIANOTE」を開設予定。

②評価

一定の取り組みを推進したが、計画していた在学生との交流機会の提供など、年度内の実施ができなかった事業があった。

③今後の方策等

大学同窓会とのコミュニケーションを図りながら、更なる連携強化の取り組みを検討する。

Ⅲ 成安幼稚園

【1】教育目標

【2】事業計画

1 併設校である成安造形大学との連携による特色ある教育活動の展開

(1) 大学との連携の推進

- ①設校である成安造形大学の教職員や学生と連携して、未入園児の保護者や地域との交流を目的としている「成安まつり」を引き続いて実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

平成30年10月27日(土)開催した成安まつりは、成安造形大学の学生の「似顔絵」も8ブース参加いただき開催することができた。

②評価

成安まつり当日、約640名の来園者があり例年好評である「似顔絵」は約60名の方が列をなした。全体の約1割の方が興味をもって似顔絵に参加いただいたことになる。所要時間と開催時間の関係で残念された方も多くある。しかし、目的としている未入園児の保護者や地域との交流ができ、向日市の方に成安造形大学の広報も多少なりともできていたと実感している。

③今後の方策等

大学の協力があり成り立っているブース「似顔絵」であるが、造形大学の魅力を更に発揮して子ども達のみならず、地域の方にも幼稚園を媒体として造形の魅力を教えていただく機会ができればと考える。

- ②併設校である成安造形大学での園外保育を開催する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

6月7日(木)及び11月1日(木)、春・秋の2回にわたり園外保育の目的地として成安造形大学を見学した。

②評価

バスや電車の乗継をして集団行動のルールを守る。また目的地で作品を見る、触るなどして楽しく過ごすことによって心身の発達を助長することができた。また、京都成安学園の成安造形大学と成安幼稚園であることが園児のみならず教職員や保護者への帰属意識を意識させていると考える。秋の園外保育は特に子ども達の関心を引き付ける内容のイベントが企画されており子ども達にとっては幸運であった。

③今後の方策等

今後も大学への園外保育を続けたいと考えている。

- ③大学からの指導を得て、本園教育職員の造形芸術分野に関するスキルアップを目指す。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

幼稚園から大学への積極的なアクションも起こしておらず積極的な活動はなされていない。

②評価

一部の教員が外部企画で「子どものものづくり」などの研修している。

③今後の方策等

併設校であることのメリットとして、教員が親しみをもって造形作品に勤しみ関心を持って子ども達に指導できるよう担当機関を通じて、大学との調整をはかり造形について予知園教員へ教授いただきたい。

2 地域の子育てサポートセンターとしての機能強化

(1) 保護者を対象とした子育てサポートの取り組み

(A) 保護者対象活動、幼児教育の相談・子育ての相談

- ①「井戸端会議」と称する、保護者間で日常の子育てについて様々な会話を気軽に行える場を提供する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

5月22日(火)3歳児(あかぐみ)保護者を対象に開催。

②評価

子育て中の親と幼稚園とが「つどい・語る」ことができる場を設け、子育て支援の環境づくりをこころがけている。「井戸端会議」の延長上に保護者会でのバザーなどの活動があり、その他活動として講座やワークショップなどを開催されている。

③今後の方策等

今後も引き続き、開催する。

- ②今年度も引き続き、キンダーカウンセラーなど専門知識のある講師を交え、保護者に対し幼児教育に関する知識や情報を広めるための講演会や相談に応じる機会を設ける。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

5月28日、6月11日、9月25日、11月5日、1月11日。臨床心理士による在園児を中心としたカウンセリングにより日常の保育に生かしている。また、未入園の保護者対処としてカウンセリング講師の講演を開催した。

②評価

講師の指導やアドバイスにより該当する園児の保育対応に生かされている。また、保護者への直接の相談の場を設けており積極的に活用されている。

③今後の方策等

子育て支援の一環として、子育てをする中で生じる不安、子どもたちの発達や友達関係での悩み、幼稚園の問題、保護者同士の関係や地域・その他での悩みなど様々な相談に応じる機会を設ける。

- ③子育て中の保護者を支援することを目的として、同世代の保護者との子育てに関する情報交換の場を提供する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

「井戸端会議」など保護者間で日常の子育てについて様々な会話を気軽に行える場を提供する。

②評価

積極的に実施することは日常の保育活動時間の配分から非常に困難であり、形を変えるなど工夫が必要。

③今後の方策等

業務の整理が必要であり、教頭を迎えるなどして対応する人材についても対策をとる必要がある。

- ④子育て中の保護者のストレスを少しでも和らげることを目的として、陶芸教室等を開催し、保護者の余暇活動を充実することを支援する事業を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

保護者会が主催となりフリーショップなどを開催し、情報共有の場を提供されている。

②評価

園が主催となり、積極的に保護者に情報交換の場を提供することはしていない。

③今後の方策等

教職員共に保護者へのサービスに係る時間も物理的に提供する施設もとれない状態である。業務見直しなど対策が必要。

- ⑤ホームページに毎月、行事予定を掲載する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

昨年度と比較しても伝えたい情報については積極的に発信し活用している。各学年も精力的にホームページを活用して子供たちの園での様子をブログにアップし好評である。また保護者が必要となる子供たちの園生活の情報についても速やかに公開している。

②評価

毎月の「園だより」については、保護者からも催促があるほどに好評である。携帯、スマホからリアルタイムでの情報収集ができる。

③今後の方策等

現ソフトでは、入力、画面のビジュアルに手間と暇がかかるため能力をアップする必要がある。

(B) 地域連携の子育ての取り組み

- ①地域警察との連携による登園・降園の支援、防犯連絡の強化、保護者及び園児対象の交通安全教室を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

事故は子どもの健全育成を妨げる最大の要因となっている。特にわが国の子どもの事故による死亡率は先進国の中では高いことが明らかになっている。本園においても地域警察との連携により、保護者及び園児対象の交通安全を守るための教室を実施した。また、学期末には、成長した子どもたちの行動範囲も広がるため、自転車の乗方について研修する。今年度は自治会と警察のご協力を得て「飛出し坊や」の注意看板を正門前に設置していただいた。

②評価

保護者の方にも子ども達の行動パターンを読み取っていたき、日頃から注意喚起しておくことや視野が極端に狭いことを実感していただき、子どもたちを安全に導くよう指導された。

③今後の方策等

近年、向日市地域が目まぐるしい発展に伴い、子どもたちの安全がますます脅かされている。子どもたちの安全安心を確保するため、全ての家庭および地域が連携して事故防止対策を実施できるよう協議が必要と考える。

②向日市消防署との連携による防災訓練、消防署見学を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

子どもたちのみならず教職員が火の災害について、日常生活で火をつかう機会をとらえて正しい火の取り扱いや火のおそろしさについて教えることが大切。そのため、避難訓練など、幼稚園に消防車で出向いていただき防火指導を受講している。

②評価

年3回～4回の火災発生時の通報手順を職員室壁面に貼るなど、積極的に活動している。

③今後の方策等

防災。防火教育ビデオ・DVDなどの視聴覚機器の使用を増やし、五感をとおして身近な出来事として感じ取れるよう積極的に工夫し活動する必要がある。

③向日市立の各小学校への見学、給食交流、教員研修を受け入れる。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

幼小の交流活動、合同研修、連絡協議会等で小学校と連携している。本園では特に幼稚園の幼児の小学校生活への適応を図ることを目指し、5歳児を中心に就学前教育と小学校教育との円滑な接続をおこなうために散歩ルート（散歩）、給食交流会、小学校教員の研修受け入れを実施した。

②評価

直接体験となる異年齢交流を重ねたことは、子どもたちにとって、小学校の施設や先生、児童に対して親しみの気持ちが生まれ、実感を伴い安心感を得ることができた。小学校生活に対する期待感を高め、卒園児は入学後の学校への適応や友達関係づくりに効果がある。幼児と児童が共通の目的に向かって工夫・協力するような活動を取り入れるなど、ねらいを明確にし、お互いに恵みのある交流になるよう活動を工夫することにより、子どもたちは、小学生から活動の刺激を受け、日々の保育の充実・発展にもつながった。また、職員間の連携が保護者からの信頼につながり保護者に情報を発信したりすることにより、連携に対する理解が得られ、入学に対する不安の軽減につながったと考えている。交流会は、直接連携校へ入学しない幼児にとっても、小学校という環境を体験する場として効果があったと思われる。

③今後の方策等

園区が広域であり、多様な小学校へ入学する状況があることを考えると、就学時健康診断や入学説明会といった入学対象児が全て訪れる機会の場を捉えた交流活動のより一層の工夫が必要である。

④地域の中学生・高校生による社会実習体験を受け入れる。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

生徒一人一人の勤労観、職業観の育成を深める学習活動として機能を果たすために、職場体験のねらいや目的を明確にし、職場体験実施計画の立案が重要とされている。また、その実践においては、体験先である本園との連携や条件の整備は必要不可欠な条件となり、中学、高校との事前打ち合わせを行っている。今年度は中学生（8月上旬）、高校生（7月末）体験を実施した。

②評価

各中学校では生徒の発達段階、地域性、各学校の実態等に合わせて、特色ある職場体験が実践され、生徒の勤労観、職業観の育成、進路への意識や意欲の向上等に大きな成果を上げている。本園の卒園児たちが実習先として本園に来てお、保育関係を将来の職業として良好な職場として視野に入れていることは喜ばしい。

③今後の方策等

受け入れ側の幼稚園としても、中学校、高等学校のキャリア教育の視点を踏まえ「事前指導」「体験の期間・内容」等を総合的に評価して中学校、高等学校に伝えることが今後の指導に生かされることとなり大切であるとする。

⑤近隣の畑を借りて実施している農業体験や食育教育を充実する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

近年、食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、偏った栄養摂取、朝食欠食など子どもの食生活の乱れや肥満傾向の増加などが見られる。成長期にある子どもにとって、健全な食生活は健康な心身をはぐくむために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成に当たって大きな影響を及ぼすものであり極めて重要であるとされている。週3日の給食メニューにも栄養バランスを考え、複数業者の発注などによる味、食物内容を検討して提供している。また、食品の品質や安全性について正しい知識・情報に基づいて自ら判断できる能力を子どもたちに身に付けさせることが必要となっている。さらに、食を通じて、地域の産物や文化を理解し、継承することも望まれている。恵まれた向日市の地で四季折々、積極的に農作物の栽培を体験して興味をもって食せるよう配慮して保育している。

②評価

地域の生産者を指導者とした農業体験活動、家庭に対する啓発などに取り組んでいる。また、食育の重要性に対する理解の促進を図るため保護者や地域の生産者なども積極的に協力いただいております。

③今後の方策等

農作物にかかわる食物の活用は、子供たちが地域の自然や文化、産業等への理解を深めるとともにそれらの生産等に携わる者の努力や食への感謝の念をはぐくむ上で重要と考えている。伝統的な食生活の根幹である米飯に関する望ましい食習慣を児童生徒に身に付けさせることや、日本文化としての稲作について理解させるなどの教育的意義を持つものであり今後も継続して食に関する保育を実施する。

(C) 預かり保育

本年度より、早朝預かり保育「午前7時30分から保育始業時間迄」を新たに開始する。また保育時間終了後の預かり保育を、現在午後5時迄のところを平成30年度から午後6時迄1時間延長してきめ細かな運用を行う。また、開催曜日についても、保護者の視線に立ってニーズを考慮

し長期休業日にも開催するなど充実を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

長期休業期間中の預かり保育の開催と通常保育日の午前7時30分から預かり保育及び午後6時迄の長時間保育の運用を行ったが利用者は1か月で平均20名程度にとどまっている。

②評価

新規企画のため、まだまだ共働きの保護者に浸透していないが、早朝、保育終了後の長時間保育の利用者は、大半専従で働いている保護者の方が利用されている。2019年度新入園児では、保育園に入園できない園児が多数入園募集されており、徐々に成果がでてきている。

③今後の方策等

近隣の小規模保育園は、午前8時から午後5時迄の保育時間で運用されている。その後預かり保育が実施されており、保育時間の運用は本園と変わらない。このような運用が保護者間で広報され、今後も長時間保育を継続していくことで共働きの保護者が増加し園児が増加していくと考えられる。

3 入園者の確保に関する取り組み

(1) 広報戦略

①引き続き本園の保育内容や諸行事について、ホームページでリアルタイムの情報発信を行う。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

情報公開を頻繁に行っており、特に「毎月の園だより」については子どもたちの日常保育にかかわる伝達ツールとして紙媒体より利用しやすく利用数が増加している。また、緊急時の伝達方法として「メルボコ」電子媒体を利用し園側からの発信。各保護者が登録する方式で携帯、スマホを利用しリアルタイムで緊急情報を確認できるものとなっている。ホームページ利用者の内、男性保護者の利用者も多数確認できる。

②評価

在園児の保護者はホームページでの情報収集が日常的になっている。各学年、クラスでの子どもたちの保育時の様々な様子や「ブログ」では子どもたちの日常予定が記載されており保護者が予定を立てやすく準備などの必要事項が記載されているため、在園児保護者は便利に利用いただいている。

③今後の方策等

今後も、よりわかりやすくリアルタイムで注意を促すなどの情報も含め実施する。また、静止画のみならず動画情報も盛り沢山に掲載出来るよう改善していく。

②平成31年度入園希望者に対する入園説明会を、日程が調整できない保護者の為に2回実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

2回の入園説明会を実施した。

②評価

2回の開催で、同数程度の参加者数があった。初回に参加できない方が2回目に参加されており、

日程調整がうまくいったと考えている。

③今後の方策等

説明内容について、今後の方針を明確にして説明内容の充実を図る。

- ③平成30年4月から9月にかけて、案内広告（リビング新聞、回覧板、地域関連情報誌など）を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

募集活動解禁となる9月1日から10月1日の願書提出までの間、集中的に紙媒体とメディア媒体での広報活動をおこなった。その他10月までの期間については、園庭開放やプレルーム開放、講演会、イベント活動など、子ども子育て活動の一環として本園のPRを実施している。

②評価

広報予算内で活動を実施した。

③今後の方策等

地域を重点に園開放を積極的に行い、広報活動を実施する。紙媒体は今後最小限にとどめ、電子媒体を積極的に行う。

- ④平成30年9月に、出生率や人口動向などのデータを確認し、地域を選択して効果的に入園案内チラシの新聞への折込みを行う。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

募集地域の出生データ及び広告業者からの地域人口移動など情報収集をおこないチラシ10,000枚の配布を実施した。

②評価

未入園児保護者などには意識的に閲覧いただいた。

③今後の方策等

紙媒体の広報活動からメディア活用を主体に広報活動を行っていく。

(2) 募集戦略

- ①平成30年4月から平成31年1月にかけて、未入園児に対する活動である「園庭開放」「プレルーム開放」を年間30回程度実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

毎回テーマを設け、前年度開放回数より増加し30回程度の開放を行った。

②評価

2月後半までの期間、毎回平均30名程度の未入園児が来園され地域の子育て支援活動及び本園広報を実施した。

③今後の方策等

内容の充実を図り、今後も実施していく。

- ②未入園児に対する活動である「せいあん♥プレ保育」について、保育内容の充実を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

未入園児保護者は、複数の幼稚園の開催行事に積極的に参加されており施設設備のハード面や保育内容や教員の指導などソフト面の経験を疑似体験を試みられている。

②評価

平成31年度入園対象児に全教員が関わり「せいあん♥プレ保育」を実施しているが、今年度の入園児数は参加者全体の5割を切った。

③今後の方策等

今年度の反省を基に、実施内容のみならず全般的に見直しを余儀なくされている。

③平成30年4月から平成31年1月にかけて、未入園児に対する活動として、「園庭開放」に「絵本の会」を加え実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

新規大型絵本、紙芝居を購入して絵本読み聞かせを実施した。

②評価

参加児は興味を持って読み聞かせに参加した。

③今後の方策等

園庭開放には欠かせない活動となっており今後も実施していく。また、メディア機器を使用した活動も行う。

④他園との差別化を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

無宗教であること、造形大学との併設校であること、田園の中にある幼稚園であること、高層マンションが隣接していることは付加価値であり、スタッフが経験豊富で子どもたちひとりひとりを大切に保育することで他園との差別化をはかることとした。また、OJTもこまめに実施されており教員の研修参加などでスキルアップし保育内容の充実を測っている。今年度は年間行事数を精査し減少して、ひとつひとつの行事を充実させる保育を実施した。

②評価

行事減少について保護者から賛美両論あるが、詰め込み保育では子どもたちにも余裕がなく成果ばかりが目的となりかねない。

③今後の方策等

年間行事実施については隔年実施するなど検討中である。また、今後も特色ある内容とするため、引き続き幅広い経験と体験を行う保育を実施していくことを検討課題とする。

⑤途中入園を希望する者の出願は、定員の調整を図りながら随時、受け入れる。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

2020年の園舎改修工事に伴い、新入園児の受け入れは、現状3クラス体制を入園児数（2クラス体制）として調整が必要となる。2019年度入園者についてはできる限り途中入園児を受け入れる方針とした。

②評価

200名を目標に募集をしているが、保護者の転勤層があり園児の出入りは激しい現状である。募集受付10月以降も入園希望がある。また、2月以降、保育園に入園できない層の問い合わせや見学も多数ある。

③今後の方策等

今後も、随時入園の体制をとっていく方針である。しかしながら、就園奨励費申請などの事務作業は複雑化、煩雑化し混乱を生むため他園では受け入れをしない場合もあるなど課題もある。

⑥園内施設の活用を推進するため、課外活動として「ECC英会話」や「体操教室」に施設を提供する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

体操教室については、全園児数の約4割が参加している。

②評価

保護者にとっては、保育後の同施設による課外活動は本園教員も居るなど安心感もあり好評である。

③今後の方策等

施設改修工事に伴い、2020年度は施設使用を中止するなど対策をとる。現状の園舎使用は「力健」の遊戯棟使用による耐震問題、子どもたちの送迎について安全確保が課題となっている。

4 教育内容の充実と施設の刷新に向けた取り組み

(1) 幼小接続

①幼児教育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることから、幼児期の教育効果を高め教育の円滑な接続を図るために小学校との接続教育に力を入れて取り組んでおり、引き続いて、向日市立第2向陽小学校、第4向陽小学校、第6向陽小学校などの小学校との間で実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

各小学校のとの連携は蜜に実施している。交流を目的とした合同昼食や園児歓迎会を開催していただくなど。散歩と称して小学校に行くなども実施している。また小学生が本園に体験実習を実施。小学校教員も研修に来園されるなど、積極的に接続教育に力を入れている。((B) ③参照)

②評価

小学校と積極的な交流を実施することで、園児ひとり一人についてきめ細やかな指導を行うことができ、すみやかな進級を促している。((B) ③参照)

③今後の方策等

今後も積極的な交流を実施する。((B) ③参照)

②教育職員と保護者相互の交流や共同の研修の機会を増やし、相互の理解を深め、具体的な改善の方策を共に考えることにつなげる。また、乙訓地区私立幼稚園協会や京都府私立幼稚園連盟などの団体との連携を強化するとともに教育職員研修なども実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

保護者については保護者会を通じて関わり、コミュニケーション強化を行っている。例年同様「せいあんまつり」行事や「講演会」開催など共同開催を実施した。協会や連盟などについては、かが展や各種研修会など積極的に参加し、研修参加に努めた。

②評価

乙訓地区私立幼稚園協会や京都府私立幼稚園連盟などの主催する研修会などに積極的に参加している。

③今後の方策等

保護者のニーズを積極的に聞き、相互理解に努め、より充実した教育環境作りに務める必要がある。また、諸団体とも積極的な交流を行い保育環境の改善をはかる。

(2) 園児の安全対策の強化

児童が安心して保育を受け、学び、教職員が安心して教育活動を行う場所であるよう本園独自の危機管理マニュアルの改善を行うとともに、適切で確実な危機管理体制を維持し充実させる。また、研修などにより教職員が共通理解を図り、防犯・避難訓練などを実施してマニュアルを見直し、より実効性の高いものになるよう改善を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

交通安全、感染、防犯、災害など実施可能な対応ができるよう都度、危機管理マニュアルの見直しを図っている。

②評価

今年度、体験事項について改善した。

③今後の方策等

都度、継続して改良、改善し、関係者の共通理解を促し、マニュアル化して訓練していく必要がある。

(3) 食育教育など

①近隣の農地の一部を借り受け「野菜の栽培」「料理」「食」など食育に関する多様な体験を、あそび、楽しみながらさせ、充実した食育教育を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

(B⑤参照)

②評価

(B⑤参照)

③今後の方策等

(B⑤参照)

②食物アレルギーへの対処については、対応マニュアルの遵守とともに、給食業者と個々の保護者の情報交換の場を設ける。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

(B⑤参照)

②評価

(B⑤参照)

③今後の方策等

(B⑤参照)

③給食業者との交渉により、給食内容の安全と充実を図る。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

極力添加物を排除し、子どもたちの健全な体作りのために安全安心な食を提供していただくよう交渉している。特にアレルギーについては、発注段階より慎重な取り扱いを実施し、保護者に対し都度、成分表の配布し点検を行っている。(B⑤参照)

②評価

(B⑤参照)

③今後の方策等

(B⑤参照)

今後も、食の安全を第一に料金や業者数についても検討する。

(4) 伝統・文化体験

伝統・文化体験に関する年間行事として「節分」「ひな祭り」「お花見」「こどもの日」「七夕まつり」「祇園祭鉾見学」「クリスマス」など、子どもたちのために工夫を凝らした行事を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

各学年が各々工夫を凝らし、年齢に応じた教育内容を検討し指導要録に基づき実施した。年間行事を実施することで日本文化を継承し、日本人としての自覚と愛情が育まれていくと考える。

②評価

今年度は年間行事数を精査し減少して、ひとつひとつの行事を丁寧に充実させる保育を実施した。行事減少について保護者から賛美両論あるが、詰め込み保育では子どもたちにも余裕がなく成果ばかりが目的となりかねない。

③今後の方策等

年間行事実施については隔年実施するなど検討中である。また、今後も特色ある内容とするため、引き続き検討課題とする。

(5) 研修

保育に関するスキルアップを目的として、教育職員に対する研修を実施する。主に乙訓私立幼稚園協会主催の研修会、京都府私立幼稚園連盟主催新規採用教員研修会、京都府私立幼稚園連盟主催の夏期研修会・一般研修、園内研修、キンダーカウンセラーによる指導を実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

今年度、約10年地道な受講を継続し2名が教員免許一級を取得した。毎年、教員免許の更新とスキルアップのため各々目標に向かって受講している。個々の実習は、内容が具体的であり、実践しやすい研修が多い。また、「特別に支援を要する園児」にかかわる研修や、他園や行政の動向など「幅広い視野」が得られる研修も参加している。

②評価

「保育者」としての立場で研修に参加し、話し合いなどをすすめる中で、互いの保育観を知り、幼児教育・保育を統合的に理解できるようになるとともに、実際に子どもの育ちの支援が充実していく利点があることがうかがえた。

③今後の方策等

今後も積極的に各種研修に参加し、保育者の研修参加の意欲と目的意識を高めることが重要である。

5 学園創立100周年記念事業・成安幼稚園開園90周年記念事業

①学園創立100周年記念事業年度である西暦2020年度は、本園の開園90周年にも当たるため、本園では学園創立100周年記念事業とあわせて開園90周年記念事業も実施する。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

開園90周年記念事業の施設改修工事については、教職員からの施設についての要望を徴収しまとめた。

②評価

記念事業について、具体的事業内容は議論出来ていない。

③今後の方策等

事業計画に基づき実施していく。

②平成30年度に園内に準備組織を立ち上げ、具体的な計画の立案を進める。

【進捗状況・評価・今後の方策等】

①進捗状況

実施していない。

②評価

今後の課題とする。

③今後の方策等

次年度検討課題として、具体的に組織を立ち上げる

【第159回理事会(平成31(2019)年3月15日)報告】